

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	グループホームを地域の方々に知って理解してもらえよう為に受入れる体制ではなくグループホームから積極的に出向き地域交流を図っていききたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている	○	地域の方々と交流がもてるように地域活動等に積極的に参加していききたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域の行事や活動に積極的に参加し、交流を深めていききたい。

沖縄県(かりゆしぬ村グループホームくつろぎ)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	家族や地域の方々から認知症の相談を受けている。認知症高齢者の正しい理解が行えるよう説明している。	○	地域高齢者のニーズを把握し、事業所独自で実施できる地域貢献を検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の勉強会を開催し、制度の意義を確認し日々のケアに取り組んでいる。評価の結果は今後のサービスの質向上に向け努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においてグループホームの活動内容や状況報告をし参加者からの意見をサービス向上に活かしている。	○	運営推進会議を定期的で開催し、参加者からのご意見や助言を受け止め地域活動やサービスの質の向上に活かしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	名護市敬老会へ参加したり、行事等の案内をしている。必要に応じて市の担当者との情報交換や相談をしている。	○	今後、市町村と共同関係ができるよう連携を図っていききたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料やパンフレットを利用して制度の理解に努めている。現在は制度を必要とする入居者がいないため、制度の活用までに至っていない。	○	今後、研修等へ参加し学ぶ機会を多くもち権利擁護事業の関係機関との連携を図っていききたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会へ参加し、どのような行為が虐待になるのか、具体的に説明し職員間で再確認して、虐待防止に努めている。		

沖縄県(かりゆしぬ村グループホームくつろぎ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所する前に重要事項説明書等を十分に説明し理解していただき入所に至っている。新たな事柄においては説明及び同意をしていただき納得した上で実践している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者、家族からの意見、苦情等はその都度対応し改善に導いている。玄関に意見箱をもうけ体制を整えている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時はその都度家族に対して生活状況及び心身の変化について報告説明している。また、状況に応じて電話での報告説明を行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>行事や面会時などには意見等を言ってもらえるような雰囲気づくりを心がけている。意見等は受容し改善に努めている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日の朝礼や月1回のミーティング、法人内会議等の中で意見、要望等を提案し、反映している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者に合わせた対応が出来るように、必要に応じて勤務時間の変更を職員で検討し柔軟に対応している。また、状況に応じ法人内からの協力を得て連携を図っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動、離職等はなるべく必要最小限に抑えるように努力している。異動の際は利用者に不安、戸惑いがないように利用者に説明し、早く馴染みの関係がとれるよう努めています。</p>	<p>○ 異動、離職は極力少なくなるよう努めていきたい。</p>

沖縄県(かりゆしぬ村グループホームくつろぎ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内研修、グループホーム独自の学習会、沖縄県グループホーム連絡会主催の研修等へ参加し職員の資質向上に努めている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>沖縄県グループホーム連絡会主催の管理者会議や計画作成者会において管理者、ケアマネージャー間の情報交換、交流を深め、施設見学会、介護者研修会などの活動を通して職員同士の交流を行い質の向上に努めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスがたまらないよう職員同士で話し合ったり何でも話し合える雰囲気づくりを心がけています。食事会などを行いストレス解消に努めています。</p>	<p>○ 個人面談を実施し、必要に応じ相談、助言し職員のストレス軽減に向け取り組みたい</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個人面談等を行い職員個々の努力、実績、力量、勤務状況等の評価をし、向上心をもって働けるよう激励している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用者の状況を日々観察し、個別に対応し話を聞いている。必要に応じて家族と一緒に問題解決に取り組んでいる。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族とは日々信頼関係を構築し面会時は職員から声かけを行い家族の方から何でも相談しやすい雰囲気を心がけている。状況に応じて母体施設と連携し支援している。</p>	

沖縄県(かりゆしぬ村グループホームくつろぎ)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容、本人の心身の状況を把握した上でサービスの情報提供を行い自ら選択できるよう努めています。また、他の事業所やケアマネージャーとの連携を図り対応しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規で入所された方は、不安でいっぱいなので個々の状況により寄り添うケアを中心に馴染みの関係を築き、他の入居者、家族とも親しくなるような雰囲気づくりを心がけています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人が出来ることはしていただいたり、出来ないことは援助させていただいています。毎日の生活の中でお互い助け合ったり声かけあつたりの思いやりの心を学んでいます。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	様々な行事、イベントには参加依頼を行い家族との絆を大切にしている。生活の様子を話し合う機会をもち、一緒になって入居者を支えていくために、同じ思いで支援していることを伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	誕生日会、外出時等、家族も一緒にお祝いしたり外出したりしていただけるよう努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年末年始や旧盆帰省などを実施したり、ドライブへ出かける時はゆかりのある場所や自宅へ訪問しています。友人や近所の方の来訪もあります。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の個々の生活状況を把握し、日々の変化は見逃さず、利用者の状態に応じた対応及び孤立しないよう声かけ、関わりを大切にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後においては、家族の今後の動向をお聞きし、社会資源の活用、在宅支援、病院、施設等の相談には継続的に実施するよう努めている。	○	継続的に関わりをもち、気軽に立ち寄りつきあえるよう声かけしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの訴えや要望に耳を傾けながら把握に努めている。困難な場合は本人の表情、行動を観察し家族の思いや職員の意見をきき検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、家族や本人からの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境の状況を把握し、家族の面会時や日常生活の中からこれまでの暮らしの把握をしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の性格、習慣を把握し、出来ること、分かる力を生活の中で見つけていく事に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を聞き取り要望に沿ったケアができるよう話し合っている。	○	家族の意見をもつと引き出し介護計画へ反映していきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に合わせて、サービスの見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの中での心身の変化及び言動の変化を記録している。申し送りで情報の共有、カンファレンスにつなげている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望に応じて外出、外泊の支援を行いできるだけ柔軟な支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて防火訓練時の消防との連携やボランティアを受入れている。	○	地域資源との協働ができるよう働きかけ取り組んでいきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、他のサービスを希望されている利用者はいないが、希望や必要性に応じ、他のサービスも含めて柔軟に対応していきたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は地域包括支援センターとの協働していない。入居されている方に関して権利擁護等の必要性はなく相談も行ってない。	○	今後は、地域包括支援センターとも情報交換を行い、連携を図っていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、かかりつけ病院は、本人、家族を尊重している。主治医等の連絡調整を図り、情報の伝達及び家族とのパイプ役として支援している。		

沖縄県(かりゆしぬ村グループホームくつろぎ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>本人、家族の意向を尊重しながら専門病院での受診を行っている。必要に応じて職員が同行、情報を提供しながら適切なケアが受けられるよう支援している。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>母体施設の看護師の協力を得て日常の健康管理について相談、助言をしている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>医療機関と連絡を密にし、本人、家族の希望を聞きながら、早期退院に向けた働きかけをしている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>家族、医療機関との連携を密にし重度化や終末期に対する話し合い家族、医療関係者、全職員で方針を共有している。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化や終末期に向けた支援について前向きに検討している。</p>	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>退所、住み替えの場合は、本人、家族を交えて納得したうえで行っている。また、その後の方向性の確認及び、施設から支援体制の意向も話している。住み替えした施設等とは、情報提供を行い、住み替えのダメージを防ぐことに努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、個人情報の認識を深め、意識向上を図り、プライバシーに関することを損ねない配慮をしている。利用者への言葉かけや対応について勉強会を実施している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりに合った声かけをし、利用者が自分で決める場面を作っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体の生活スタイルを尊重し、その人らしい生活ができるよう支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個人の希望や好みに合わせた服装の選択、美容室へ出かけたり、家族の対応、訪問理美容の支援をしています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が同じ食卓で一緒に食事をしている。準備や片付けは入居者一人ひとりの力に合わせて役割を決めて職員と一緒にやっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人、家族の希望に応じ健康に配慮しながら個々に楽しめるよう支援している。	

沖縄県(かりゆしぬ村グループホームくつろぎ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録をチェックし、個人のパターンを把握したり、利用者の行動や表情を観察しトイレ誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前にバイタルチェックを行い入居者の希望に合わせた入浴支援をしている。支援の必要な方も出来るだけ残存能力を発揮してもらえるよう時間も余裕をもって支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	特に就寝時間を決めることなく本人の意思やリズムにより、居室へ誘導し、室温等の環境を整えたりしている。寝つけない時は添い寝をしたり、寄り添いなどの支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりが出来ることを把握し、個々の力にあった役割分担を行い時間がかかってもゆっくり見守り、出来ないことを支援し、簡単な作業であっても感謝の気持ちを伝え接している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の能力に応じ自己管理を希望される方は、家族と相談し、お金を所持して使用している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に応じて、散歩や、ドライブに出かけたりと自由に外出できるようにしている。	○	個別に外出できる機会を希望に沿って支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望があれば勤務状況により対応したり、家族の協力を得て対応している。		

沖縄県(かりゆしぬ村グループホームくつろぎ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じて、手紙や電話をしたり出来るよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来る方や本人の意思を尊重し、居室やリビング、縁側等、好きな場所で面会ができるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の自由を束縛しないで安心して過ごせるよう心配りをし、その人らしさを活かすよう努めています。職員には、身体拘束による精神、肉体両方の弊害を話して、理解を求めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、居室は施錠はせず、利用者が自由に外へ出かけられる状況である。職員は、鍵をかける弊害の理解と所在の確認を徹底し安全管理をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は一人ひとりの行動や状態を見守り、声かけし居場所を確認しています。常にプライバシーに配慮し、必要時は巡視を行っている。居室に入る際はノックし、入室するよう配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人ひとりの能力や状態に合わせた物品の管理支援を行っている、リスクの高い物品は置かないようにしている。薬は鍵を設置し、職員が管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書、ヒヤリハット報告を記録し、再発防止の話し合いや今後活かすよう話し合っている。		

沖縄県(かりゆしぬ村グループホームくつろぎ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>緊急対応マニュアルを整備し、緊急時対応できるように備えている。消防署による救急救命講習(AED講習)を全職員が受講している。</p>	
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防の協力を得て、防災訓練を実施、スタッフ、入居者共に防災、安全への意識付け及び避難誘導などを確認している。緊急時は母体施設より協力体制をとっている。</p>	
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>	<p>事故発生、インシデント時には家族に連絡し、実情を報告し家族、職員で今後の対策を検討している。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>食事量や排泄などをチェックし、日頃の状況を把握し些細な変化があっても早期に発見できるよう観察しながら職員間の情報共有を図っている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個別に薬の説明書をファイルし内容を確認している。近隣の薬剤師と連携し薬に関する相談や確認をしている。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>排便チェックを行い、食事の工夫や水分補給、運動、緩下剤のコントロール等で対応しています。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>起床時、毎食後、就寝時は口腔ケアを、うがいを実施し、個々の状態に応じて対応している。</p>	<p>○ 口腔ケアについては、なかなかさせていただけない入居者が2名いて取組みを検討している。</p>

沖縄県(かりゆしぬ村グループホームくつろぎ)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月一回体重測定を実施、食事量チェックを行い一人ひとりの栄養状態を把握している。状態に応じて個別に尿量や水分摂取量チェックを実施している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いの励行、帰宅時の手洗い、うがいの徹底 職員、利用者はインフルエンザ予防接種を実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前後は手洗いを徹底し、生野菜は流水でよく洗っている。食材は十分に加熱し、調理後はすぐに食べるようにしており、残さないようにしている。調理器具、食器は洗剤に浸け置きし、乾燥している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口が階段になっている為、車椅子の利用者が自由に出入りしやすい環境である。	○	段差を解消し、手すり等を設置して安全面に配慮した玄関周りを工夫したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音の大きさ、照明、温度調整は入居者に合わせて配慮しています。ご利用者と共に庭から摘んできた花を飾ったり、季節の装飾をし、居心地良く過ごせるよう配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の座席は、入居者同士の関係を配慮してくつろげるように努めています。一人ひとりの居心地が良い場所が確保されゆったりと過ごされています。		

沖縄県(かりゆしぬ村グループホームくつろぎ)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品等を持ってきてもらい、安心して心地よく過ごせるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気はこまめに行い、掃除の時は窓を開けて行っています。室温調整は入居者の状態に応じて対応し、職員は、自分の感覚で判断しないよう配慮しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態変化に合わせて手すりを設置したり、車椅子でも自由に移動できるようスペースを工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の居室やトイレの表示を用いたり声かけ誘導を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先に花を植えたり、野菜を植えて草取りや水かけをしている。天気の良い日は庭を眺めながら喫煙したりコーヒーを飲んだりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(かりゆしぬ村グループホームくつろぎ)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

その人らしい生活が送れるよう、気づきを大切に、その人の可能性を見出すことで、利用者が笑顔で過ごされ安心して生活が送れるよう支援している。